

**□海青くロマン薫る里**  
 天草町は天草下島の最南端に位置し、東は本渡市河浦町と北は若北町、南は牛深市と接し、西は藍より青き洋々たる東支那海に面する東西六・六キロメートル、南北二十キロメートルの細長い地形で総面積八四・一七畝、世帯二千二十二、人口七千四百一人で、福連木、下田、高浜、大江の旧四ヶ村が昭和三十一年九月合併して誕生した町である。総面積の七割強が林地で四山系を南北に結ぶ線を頂点として、西南に急傾斜、耕地はこの傾斜に沿い階段状に点在、そのためせましく、やせ地が多い。では四地域を展望してみよう。

**□宮山と和牛の里、福連木**  
 福連木は天草島でも高嶺角岳の山麓に点在し、ここからは、昔から良質の檜が産出されていて、旧幕時代よく檜の柄として重宝されていたとの記録がある。現在では、甘夏、早生温州みかんの団地造成、タケノコ栽培、それに和牛飼育が盛んである。なかでも繁殖牛は福連木牛として郡内でもその優秀性が定着評価されてきた。そのため町でも草地開発事業を導入、基盤づくりに取組んでいて将来が楽しみな産業である。

**□天草唯一のいで湯の里、下田**  
 福連木に源を発する下津深江川の下流に広がる集落が下田である。ここは天草唯一の温泉郷で別名白鷺温泉とも呼ばれている。また、ここ西海岸は雲仙天草国立公園の中でも天草のメッカとして知られ奇岩怪石が多くその海岸線の美は来客のひとしお賛辞を惜しまぬところであり天草下島横断有料道路も完成し、観光振興にも期待をよせている。

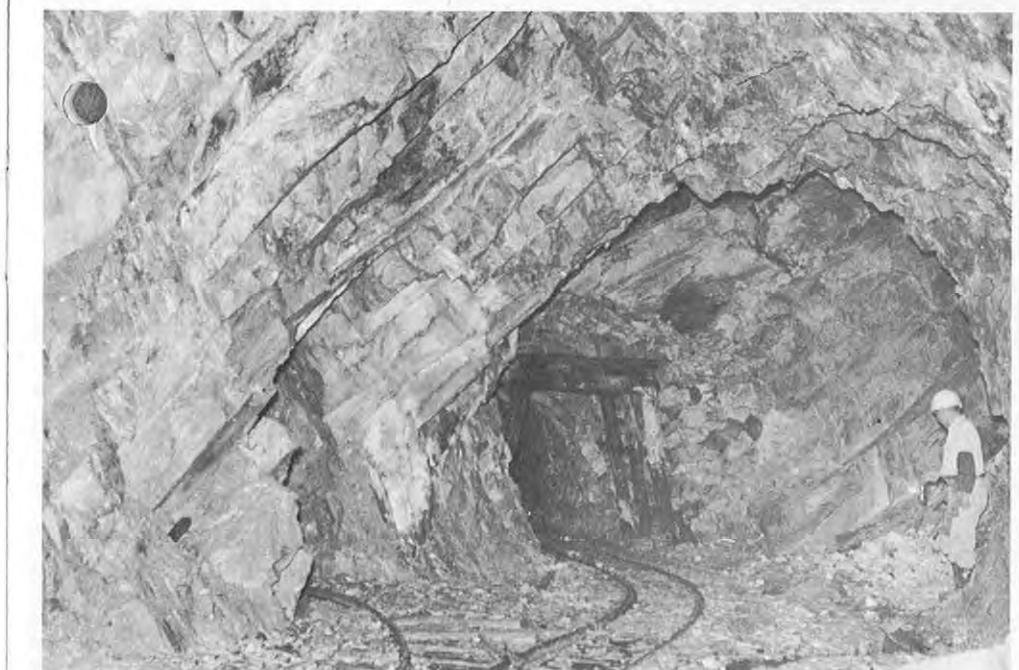
**□漁業とキリシタンの里、大江**  
 「白秋とともに泊まりし天草の大江の宿は伴天連の宿」ここ大江は天草キリシタンの発祥の地でもあり、吉井勇ほか歌人五人衆がこの地を訪れ、天草を誌上で紹介した「五人の靴」は有名である。谷間にこだまする祈りの鐘は、歴史の懐



▲大江天主堂



▲白鶴浜海水浴場



▲天草陶石採掘現場

いる。高浜は島内でも早くから栄えたところで、それは、陶石生産と相俟って蒸業技術を、いち早く取り入れ高浜皿山焼が世に知られていたためといえよう。皿山焼は技術継承者がいないまま影をひそめてから久しいが、町文化財保護委員会では、窯跡の保存に力を入れ、皿山焼復元を試みている。

観光面を展望すれば、白砂、青松の自然美で知られる海水浴場白鶴浜がある。その周辺には「江蘇省より秋風を吹く」歌人と謝野鉄幹夫妻の歌碑が建つ十三仏崎高台がある。ここからの眺望は藍より青き海原が漑しない。わが国初の海中公園に指定された奇岩大ヶ瀬はこの地からグラスボートが発着している。

古とともに、住民の心のやすらぎともなりホワイト天主堂は敬けんのシンボルでもある。

農業ではそ菜づくりを中心にピーマン、サヤエンドウ、インゲン等を多穫し、その生産は郡内でも上位である。みかん団地も多く特に向辺田地域で出荷されるみかんは外観、味いずれも天草代表として自他共に認めるところである。又養豚も盛んで区域全体で一万二千頭が飼育されていて、農家所得のトップを占めている。漁業も大型定置網、小型底引網等が盛んで、技術改善と施設の充実で年々漁獲高も上昇し、年間四億円の水揚げがある。

**□教育・産業・観光振興を三大施策に**  
 住みよいこころ 豊かな町づくり  
 地域別に見てもわが町は誠にバラエティに富んだ町である。住みよい、心豊かな町づくりを基本に教育・産業・観光振興を重要施策としてきた行政の真価がようやく地についてきた感がある。教育では生涯教育を目標に郡内各町のトップを切って町立幼稚園を設立、高校設置と相俟って、そのレベルは完全に敷かれていく。施設面にしても校舎の鉄筋建替えが着々と進み、プール、体育館の併設、運動場の整備も順調に進んでいる。又教育機器の整備は県下でも屈指の充実ぶりである。これからの学校教育では、社会の形成者育成に一層の努力をそそぐとともに、社会教育では、コミュニティの推進で地域社会の連帯感を深め地域づくり町